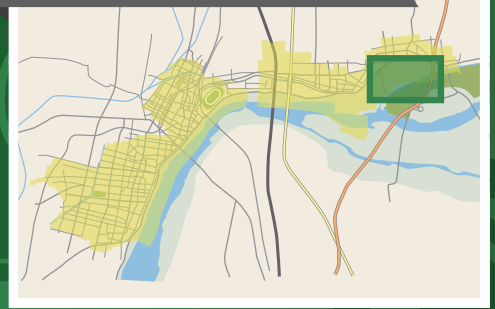




笠松町のこのあたりを巡ります



2 猿尾が残る合戦場

時間 40分

距離 3.4km

木曾川沿いには、形が猿の尾に似ていることから猿尾と呼ばれた堤防の跡が多く残っています。猿尾は江戸時代から明治時代にかけて築られました。

また、木曾川周辺では古くから度々合戦が行われました。この地でも、享禄3(1530)年に松波庄五郎(後の斎藤道三)と野武士による松山合戦が、慶長5(1600)年には関ヶ原の前哨戦とも言われる米野の戦いがありました。

木曾川沿いを歩き、猿尾堤や堤の切れ跡、渡船場、そして合戦場といった、木曾川と人々の関わりを感じることができるコースです。

4 トンボ天国
(無動寺港跡・木曾川河跡湖)

5 梵鐘(光得寺)

6 土岐塚

7 川原から
ごぞった地藏様

8 ゴール!!
巡回町民バス
総合会館バス停

3 江川の
舟つき場と猿尾

2 米野の戦い跡
(米野墓地内)

1 スタート
巡回町民バス
米野高瀬バス停



各ポイントの
詳しい情報は
裏面にあるよ



2 米野の戦い跡(米野墓地内)

慶長5年(1600年)の関ヶ原の戦いは、東軍の徳川家康と西軍の石田三成が戦った「天下分け目の戦い」として知られています。この戦いの1カ月ほど前、8月22日朝、池田輝政を中心とした東軍が川を渡って米野に上陸し、大勝利に終わりました(米野の戦い)。東軍は米野の戦いに勝利し、翌日の岐阜城の戦いにも勝利しました。これが西軍を関ヶ原に導き出すきっかけとなりました。西軍の飯沼小助兵衛の墓は平島(岐南町)に、東軍の大塚権太夫の墓は無動寺に残っています。



3 江川の舟つき場と猿尾

明治、大正時代までは、堤外の南(現在の北派川)を木曾川の本流が流れていました。その後、河川の改修工事等によって本流が南の方に変わりました。今はその跡が河跡湖として残り、「古池」と呼ばれています。昭和の初め頃までは下流の方で川がつながっていて、舟つき場になっていました。池の西側は昔の猿尾の跡となっていて、ほぼ完全な形で残り、まわりには大きな石でつくった底がみられます。昔は、この猿尾の先にいかだがぶつかってこわれることもあったそうです。



4 トンボ天国(無動寺港跡・木曾川河跡湖)

江川・無動寺の堤外にある6つの池の周辺をトンボ天国と言います。現在、約30種類のトンボの生息が記録され、多くの人々が訪れてトンボの観察やレクリエーション活動などに取り組んでいます。ここにある5つの池は、木曾川の本流が取り残されてできた池で、河跡湖と呼ばれるものです。また、ここは無動寺の港跡でもあります。昭和15、6年頃までは、20数せきの舟があり、川祭りも盛んでした。「岐阜県の名水」「ふるさといきもの里」にも選ばれています。また、池には大正13年(1924年)に竣工した「聖牛」が残っており、治水技術を理解する上で非常に貴重な土木遺産です。
聖牛：川の流れを変化させるための水制の一種で、治水に力を入れた武田信玄の時代に生まれ、江戸時代に発達。太い丸太を三角錐の形に組んで川に設置されたもので、増水時に流されてきた土砂を岸側に堆積させることで、川岸を守る働きをする。



5 梵鐘(光得寺)

光得寺の梵鐘は、最初、文明7年(1475年)に、長塚(各務原市)の手力雄神社の鐘としてつくられました。その後、大永5年(1525年)に尾張国(愛知県名古屋市の古屋市)の高田寺に、さらに天正14年(1586年)尾張国の万松寺(愛知県名古屋市の古屋市)へ移り、明治9年(1876年)に光得寺に買い取られました。梵鐘の高さは、97.5センチ、口径58センチ、重さ約225キロで、形も音もよい鐘です。岐阜県重要文化財(工芸品)の指定を受けています。



6 土岐塚

天文13年(1544年)9月、尾張の織田信秀(信長の父)が美濃へ攻め込んできたとき、斎藤道三の娘の婿である土岐頼香が無動寺の光得寺に砦を構えて戦いました(無動寺の戦い)。斎藤道三は、現在の羽島市付近に陣を張っていましたが、土岐氏を滅ぼそうと考えて、家来に命じて無動寺に陣取っていた頼香を殺害させました。大将を失った美濃勢は退散し、頼香は光得寺の隣のやぶ陰に葬られました。



7 川原からござった地藏様

明治のはじめ、大水のあった後、川原に流木を拾いにいった村の人が6体の地藏様を見つけ、持ち帰りました。その後、昭和12年(1937年)にお堂を建ててまつりました。この地藏様は天保6年(1835年)加茂郡東白川越原村の人たちによってまつられたことが、台座に刻まれた文字によって分かりました。明治初年ごろ、神仏分離・廃仏毀釈の時、舟かいかだに乗せて、こっそりと川へ流されたのではないかと言われています。



お立ち寄りポイント
stop-point

コースから少し足をのばして散策♪



手斧猿尾

別名「亀姫猿尾」ともいいます。大正時代までは、木曾川の本流がこの付近では堤に沿って流れていました。そのため、堤を守る必要が出てきてこの猿尾堤がつけられました。

猿尾：猿の尾のように細長い突堤を岸から突き出し、水の流れを弱めようとする堰の一種。



米野渡船場跡

大正時代までは、米野の防水倉庫前では、堤から南に150メートルくらいの所を木曾川の本流が流れており、そこに各務原市川島笠田町への渡船場がありました。



松山合戦場跡

戦国時代、享禄3年(1530年)の春に、松波庄五郎(後の斎藤道三)は尾張から入り込んできた約千人の野武士とこの木曾川べりで戦い、みごとにこれを撃退しました。

斎藤道三：戦国時代の大名で、守護の土岐氏を追い出して美濃を制圧したが、長男義龍と長良川で戦い、戦死。



まちなかの駅
machi-no-eki

思いがけない出会いがあるかも！

- 18 みちくさ高瀬の駅 [エル・パンドール]
- 42 おしゃれ大好き serect kimono の駅 [睦月]
- 43 香りの駅 [カフェ 卯らら]
- 48 和太鼓の駅 [松原セミナーセンター]

みんなの交流の場だよ
立ち寄ってね！



笠松ナビ アプリをダウンロードしてもっと楽しみましょう♪

【問い合わせ先】 笠松町歴史未来館
住所：岐阜県羽島郡笠松町下本町87番地 TEL:058-388-0161
笠松ナビホームページ： <http://gealpha.jp/kasamatsunabi>

笠松ナビ



[iphone]



[Android]